野鼠と大鼠の話

貝塚澁六

野鼠と大鼠は元來同じ先祖から降つて來た囓歯類の動物だが今では大鼠は體の長さが一尺ばかりもあつてダブ〳〵した頬袋があつて只の野鼠とは違ひ、冬中は穴に籠つて、貯へた木の實や木の根や穀物類などで生活して居る。

昔し昔し或處に野鼠ばかりが住んでゐた。別段生活に不自由も無いので、外の野鼠を呼んで來て一緒に住んでゐた。所が、其の新らしい野鼠の一族は、頻りに食物を其の穴に貯へこんだ。

冬になつても彼等は食物に困らない。そこで體も大きくなり、力も強くなつた。彼等は段々增長して、元の鼠等と自分等の間に隔てを作り、別個の種族に成すました。それが卽ち大鼠であつた。彼等の貯蓄した食物は勿論共同の野山から取つて來たのだが、彼等はそれに『財產』と云ふ名を附けて、野鼠に對して『財產』は神聖だと云ひ聞かせた。

然るに年月の經つ中に、野鼠共が漸く大鼠に對して不平を言ひ出して來た。大鼠は考へた。何分にも野鼠は數が多い。若し奴等が團結して手向ひする事になると、幾ら自分達が大きくても詰りは滅ぼされて了う事になる。そこで色々と野鼠共に食物はやらずに外の事で慰安を與へる方法手段を取つて見た。然し一向効果がなかつた。

所が、ある日、思ひがけなく都合の好い事が起つた。

彼等領分にしてゐる野の境に小川があつて、其の向側にも野鼠の大鼠が住んでゐたが、兩側の大鼠は折々其の小川を渡つては他領の食物を奪ひに行つた。兩側の大鼠は互に嫉妬心を抱いて掠奪の競爭をやつてゐたが、兩側の野鼠共は只同じ樣に大鼠から荒されるのを嘆いてゐた。此方の大鼠は考へた。此分では此方の野鼠と彼方の野鼠とが提携して、我々大鼠に謀叛をするかも知れぬ。そこで或日、領內の野鼠共を集めて、大鼠の大將が高い石の上に飛び上つて演說した。

野鼠共よ、汝等がいつも食物に不自由して苦しむのは、あの川向ふの大鼠が此の領內の野山を荒しに來るからだ。若しあの大鼠等を追拂つて、我々が逆樣に川向を荒しに行くならば、我々は斷じて再び饑餓に苦しむことはないのである。只憎む可きは川向の鼠共である。どうだ我が領內の野鼠共、我々は擧國一致で以て川向の征伐に出かけようではないか。元來汝等野鼠と我々とは決して別種の者ではない。我々は總て囓歯類と稱する一大同族である其の同族たる我々が領內に於て相爭ふとは如何にも謂れのない事ではないか。』

領內の野鼠共は此巧妙な演說を聞いて領內の大鼠に對する態度を一變して領內の大鼠と握手した。大鼠は倉庫を開いて少し計りの貯蓄を取り出しそれを野鼠共に分配した。野鼠共は喜び勇んで川向の戰場に出陣した。然し、野鼠の中の或奴等は、どうしても喜び勇んで出陣する氣になれなかつた。彼等の眼には何と云はれても大鼠と野鼠との區別が著るしく映つた。所が此の不心得の野鼠共は我が領內に於ける此の一大同族に對する謀叛人として、他の多くの忠良なる野鼠共から猛く攻擊された。

戰爭は終つた。川向は負けて此方は勝つた。多くの野鼠と幾分の大鼠とは戰死したが、此方の戰利品の掠奪物は非常のものだつた。然しイザ其の分配となつて見ると頬袋のない小さな弱い野鼠共は、幾許もそれを貰ふことが出來ず、矢張り大鼠共が大低みんなせしめて了つた。

囓歯類の一大家族は、戰爭が終ると同時に、兩び大鼠と野鼠との二族に分れて了つた。そして大鼠は益々其の貯蓄を多くして肥ゑふとり、野鼠は相變らず其日々の食物に不自由して痩せてゐた。

▲農村問題 價一錢
▲婦人問題 價一錢
▲桃太郎 價一錢
▲運動 勞働者と社會主義 價十錢
▲金持と貧乏人 價十錢
▲犬芝居と猿芝居 價十錢
▲勞働婦人の解放 價十錢
▲智識階級に與ふ 價十錢
▲文學青年に與ふ 價十錢
▲特殊民の解放 價十錢

無產社リーフレット

▲怠惰者と社會主義 價十錢
▲牙を拔かれた狼 價十錢
▲勞農露西亞問答 價十錢
▲露西亞農業制度 價十五錢
▲タンクの水 價十五錢
▲賀川豐彥と社會主義 價十錢
▲如何にして社會主義者になつたか 價十錢
▲社會主義の進化 價十錢

水曜會パンフレット